



・・・地元みなさんとともに！

「大和学園・京都栄養医療専門学校」からの
依頼を受け、「やりがい」を熱く語る！

未来の管理栄養士に夢とやる気を！

将来、管理栄養士を目指して勉強中の学生さんに、当院の管理栄養士・谷中主任が講演しました。仕事内容や「がんばり」を話すことで、学生さんたちからは「患者さんとの関わりなど具体的でわかりやすかった」「嚥下造影食に興味がわいた」「責任感の重さが伝わった」「資格に対する意欲が高まった」との感想をいただきました。千春会では、さまざまな形で、学校や事業所とお互いに協力し合ってより良い関係を構築しています。



講演中の管理栄養士 谷中景子さん



迅速な「命」のリレーを目指し！

救急救命士2名（幾馬國夫さん・越上 修さん）が5日間、当院で研修されました。



◆細かいスケジュールで勉強になりました。吸引や点滴などの実習は現場で活かせると思います。ドクターも気軽に話しかけてくださり、NST 回診・褥瘡回診同行なども初めてで参考になりました。さまざまな面で「良質な医療・看護・介護」という千春会理念の実践が感じられました。（幾馬さん）
◆ナースさんが忙しい中でも、気遣っていただき、とてもうれしかったです。講義も多く、石原 Dr から「透析患者さんが救急を呼ぶ場合」を学び、救命士としては経験も浅いのですが、実際に活かれます。（越上さん）
と、丁寧な感想をいただきました。これからも千春会は、迅速な救急受け入れに協力し、大切な「命」を守っていきます！



キラキラ輝く
ロマンチック長岡京！
イルミネーション行事協賛
11月28日点灯～H.21年1月4日



毎年、開催されるイルミネーション行事。千春会病院玄関前にもイルミネーションを点灯しました。

地元みなさんに楽しんでいただけるようにやさしく輝く光をお届けしています！



トピックス 早期発見が大切！ 眼底カメラによる眼底撮影検査をはじめました！

ご存知ですか？「人間の血管を直接観察できるのは眼底だけ」

眼底の観察で、高血圧・糖尿病・動脈硬化などの早期発見、経過観察ができます。10月から無散瞳眼底カメラによる検査を導入。眼科専門医による詳細な網膜画像診断を行うことで、病気の早期発見も。痛みもなく、気軽な検査です。



あけましておめでとうございます！

表紙を飾る「迎春寄植え」（参加者作品）と長岡天満宮「絵馬」。長法寺地区で、山本末成さん（山本園芸研究社）を講師に生涯学習推進委員高橋さんの音頭で寄植え講座が開催され「お正月にぴったり」と、みなさん楽しそうでした！おめでたい草花と長岡天満宮の絵馬で、さらに「福」があふれます。



それぞれが輝きながら一つになり、より一層輝くのが「寄植え」の美しさ。千春会も「医療・看護・介護」の大きな幹に、明るく誠実なスタッフが心を一つに集まって、地域の方々に「健康とゆとり」を添えていきます。医師・看護師・スタッフの「結集された力」で、皆さんの「健康で穏やかな生活」を強く、優しく守ります。日の出のように輝く「千春会パワー」に、今年もどうぞ期待！！本年も皆様が明るく健康で、「福」満ちることを祈って・・・。（弘）



患者さまの権利と義務

当院では、次に掲げる患者さまの権利を尊重します。

- 1 患者さまは誰でも、良質な医療と良質な看護を公平に受ける権利があります。
- 2 患者さまは、医療の内容について納得できるまで十分な説明を受ける権利があります（インフォームドコンセント）。
- 3 患者さまは、他の医療機関の医療者に意見を求める権利があります（セカンドオピニオン）。
- 4 患者さまは、医師から説明を受けた治療方法など自らの意思で自由に選択し決定する権利があります。
- 5 患者さまは、ご自分の診療録など診療情報の開示を求める権利があります。
- 6 患者さまは、個人の情報やプライバシーの保護を受ける権利があります。

また良質な医療と看護を公平に受けていただくために、患者さまに次の義務をお願いしております。

- 1 患者さまご自身の健康に関する情報を、できるだけ正確にご提供ください。
- 2 十分理解できるまで質問していただき、納得した上で治療をお受けください。
- 3 患者さまおよびご家族の方々は、他の患者さまの治療や職員による医療提供の支障にならないように協力する義務があります。



日本医療機能評価機構認定病院

千 春 会 病 院

〒617-0826 京都府長岡京市開田2丁目14-26
TEL. (075)954-2175 FAX. (075)955-4615

2009年1月号 Vol. 10（2009年1月1日発行）

せんしゅん

<http://www.senshunkai.or.jp/>

千春会

検索



ISO9001：2000認証取得
日本医療機能評価（Ver.5）認定病院

発行責任者：菊地 孝三



迎春和風寄植え（ミニ）
長法寺地区の「手作り講座」参加者作品



理 念（3つの使命）

- 1 患者・利用者の自立を支援し、良質な医療・看護・介護を提供する。
- 2 仕事に誇りと責任を持ち、社会人としての向上を目指す。
- 3 事業の充実により、住民の健康増進と地域社会の発展に寄与する。

医療法人社団 千春会

新春のご挨拶を申し上げます



理事長 菊地 孝三

アメリカのバブル崩壊に端を発した世界的な金融・経済不況に加え、世界各地で頻発するテロや暴動による社会不安など、昨年から経済情勢・社会情勢がますます不安定になる中で年の明けとなりましたが、皆様方におかれましては、穏やかな新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨今、「医療」特に病院を取り巻く環境が厳しさを増す中、千春会は昨年(平成20年)一般急性期病棟の他に亜急性期病床を取得し、さらには全国的に看護師不足といわれる中、「7対1看護」という手厚い看護師配置を行うなど、着実に医療・看護の質の向上に取り組んでまいりました。また、京都や乙訓地域をはじめとする基幹病院との大腿骨頸部骨折や脳卒中の地域連携パス(今号P.2参照)を構築。さらには、外来・透析患者の急増など、目に見える大きな変化を遂げることができました。

しかしながら、国は大変な財政赤字を抱えており、それを少しでも削減するため昨年4月から医療計画及び医療費適正化計画が施行され、療養病床削減などの医療制度改革や医療費削減などが本格的に始動しました。また、救急搬送での、いわゆる「たらい回し」などから浮き彫りにされる医師不足や病院閉鎖など医療崩壊が日々伝えられているところです。

このように、医療や介護を取り巻く情勢は依然厳しい状況ではありますが、千春会病院では7名の常勤医師を先頭に内視鏡や透析といった特色を持ちながら、昨年、最新式の眼底カメラを導入。その所見を眼科専門医に読影してもらい、糖尿病や高血圧等の合併症発見に努めるなど、日々、「良質な医療」を目指した診療にあたっております。

また、特定保健指導などの動機付け支援についても、基幹病院と当院が長岡京市と提携するなど、積極的に公的機関にも協力しております。

今後さらに、医療や介護を必要とされる方が増え続けると考えられますが、国はそれらの方々を

在宅でケアするよう方向付けをしています。

それらを受け、千春会では、外来・入院・透析はもちろんのこと、「在宅」にこれまで以上に重きを置いてまいります。

自宅、あるいは地域で暮らし続けるためには、医療や介護が必要となります。在宅支援に向けて、昨年、新規事業として、乙訓地域初の単独型認知症デイサービスを開設いたしました。

今後は、在宅支援診療所や訪問看護ステーションの開設を視野に入れ、通所サービスの拡充を行い、さらには有料老人ホームやケアハウスなど居住系施設の充実を図り、できる限り自宅、あるいは地域で暮らしていただけるようにサポートしてまいります。

そのためには、今以上に医師や看護師、リハビリスタッフを充実させるだけでなく、管理栄養士の訪問栄養指導などもさらに積極的に取り組み、デイケア、デイサービス、訪問介護などにも、より一層、力を尽くしてまいります。

在宅生活の障害となる大きな要因として、運動機能の低下があげられます。今後、行政と協力・連携し、運動機能の向上をはかるために「リハビリが集中的に行える施設」「地域リハビリの中核となる施設」を開設すべく、本年、事業に着手する予定です。今後、このような事業を展開することで、地域の皆さんが、在宅で穏やかに暮らし続けるための一助となれればと考えております。

在宅で暮らす「その人」を当法人だけで支えることは困難です。今まで以上に基幹病院や地域の診療所などとの連携も強化した上で、千春会は、一歩先へと「良質な介護」を目指してまいります。

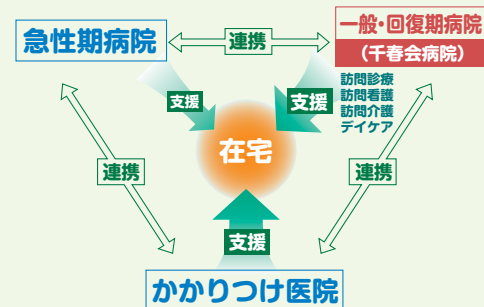
地域に真に必要とされる病院・施設として、また、地域の「かかりつけ病院」として、さらなる「良質」を求め、職員一同、日々研鑽を重ねてまいります。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



医療の地域連携

厳しい医療財政の中、医療の質を維持するために、効率的な医療を提供するシステムの再構築が行われようとしています。それはつまり、地域の医療機能の適切な分化・連携を進めていくことです。例えば、脳卒中の場合でいうと「手術、救命処置など高度医療を行う、初期治療(急性期)を担当する病院」「リハビリなど回復期を担当する病院」さらには「退院後の治療を担当する医療機関」と、それぞれの特徴を活かし、病気の回復の状態に見合った最良の医療が提供されるというシステムのことです。



こうした「病院の機能分化」は、医療資源の効率的な活用と言えますが、患者さんの立場からすると「ひとつの医療機関で治療が完結しない」ということにもなります。

そこで、「地域連携診療計画書(地域連携パス)」なるものを作成し、医療機関の転医の際だけでなく、その後、介護保険施設等に移る際、さらには在宅に帰った時のかかりつけ医や、ケアマネージャー、介護サービス事業所などにもこれを伝達して、切れ目の無い継続した治療・

ケアを行ないます。このような、より質の高い医療を提供するシステムが「地域連携」という考え方です。

千春会病院は、この地域において回復期から在宅、介護サービスを担っています。

我々は「地域連携室」という専門の部署を設け、他医療機関と密接な連携をとりながら、今後も、より「質の高い医療」を提供していきます。

「不安」を「安心」に！ 心を込めてサポートします！ 地域連携室

病気になった時は本当に不安なものです。地域連携室では、患者さんの立場に立って、不安を少しでも軽減し、在宅でも安心して治療・療養に専念していただけるように心を込めてサポートしています。

医師や看護師、その他スタッフ、各事業所のケアマネージャーさんと十分に相談しながら、患者さんや利用者さんにとって一番良い方法を考えていきます。在宅療養では、在宅介護、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリの提案や福祉施設への入所など、その方に適した、きめ細やかな対応を心がけています。

「患者さんを取り巻くさまざまな環境に応じて、より良い方法を共に考えることで、最良の在宅支援ができるように、真心でご提案しています。」と笑顔で話す5名のMSW。



ご相談を希望される方は、ぜひお気軽にご連絡下さい。

地域連携室って？

千春会では、5名のメディカルソーシャルワーカー(MSW)が、治療や転院・入院・退院や在宅療養などで、さまざまな不安を抱えておられる患者さんや利用者さんの相談に応じています。



地域連携室
TEL (075) 954-2175 (代)

「錠剤が大きいから
割ったりつぶしたりして飲んでいいかな？」

大きな錠剤、たまにありますよね。私たちも内心「飲むの大変だろうなあ」なんて思いながら調剤することはあります。

錠剤をよく見ると、真ん中に少し切れ込んだ線が入っているものがあります。これは「割線（かっせん）」と言って、文字通り割るための線です。

私たちが医師から「0.5錠」という指示を受けた場合は、歯がかぶさらないよう工夫された「割線バサミ」などで、この割線に沿って割り、調剤します。

もし飲みにくければ割線がある薬は、割って飲んでも大丈夫ですが、割線のない場合は少し注意が必要です。

割線がないのには理由があり、それよりも少量の服用はなく、必要がないためつけてないものや割ってもうと困るからついてない場合もあります。効果が持続するよう溶け方に工夫がされている錠剤の場合、割ったりつぶしたりすると早く効きすぎたり、血液中の薬の濃度が上がりすぎて副作用がでたり、苦味や刺激があったりで、割らないようにしている場合もあります。

私たちが医師から0.5錠処方や粉砕の指示を受けた場合、問題がないかを確認してから調剤をします。基本的には錠剤やカプセルはそのまま飲むのがいいのですが、もしどうしても飲みにくい場合は割れるかどうか調べたり、同じ効能の小さい薬への変更などなど、対応しますので、薬局へお気軽にご相談ください。

これが割線です
よく見てね

割線バサミ
ここは錠剤はさみます
刃が重ならないので、歯は切れません...

おくすりの話・4

薬局長
栗原 ゆかり

地域密着インタビュー！！ 「長岡病院」紹介の巻

いつも頼れる「心の病院」をめざし。
「患者さんの「いい笑顔」がみたいから・・・」

長岡ヘルスケアセンター（長岡病院）
畑 典男 院長
（平成19年4月院長就任）



今回は、創立74周年の長岡病院をお訪ねしました。明るい院内にはカフェもあり「通所授産施設カメリア」で作られたパンやケーキを楽しむことができます。

包み込むような笑顔と穏やかな口調で語っていただき、院長の丁寧なお人柄に触れることができました。

歴史ある病院ですが、明るいイメージがしますね。

院長：これまでの精神科病院という暗いイメージを払拭すべく、外観を明るくオープンにし、ボランティアさんや病院見学などの積極的な受け入れをはじめ、毎年文化祭を開催するなど、地元の方々との交流を図りながら、理解をいただけてきました。

今後の長岡病院は何を目指していかれますか。

院長：入院だけでなく、いつも身近に感じていただけるように外来治療や訪問診療にも力をいれています。地元学校や保健所での相談もしており、10代から90代まで幅広いメンタルクリニックとして、多岐にわたる「心の病気」「心の悩み」に対して「長岡病院があるから安心」だと思って気軽に受診していただきたい。また、増加するうつや認知症の病棟分離を含め、どのように関わっていくのが今後の課題です。



財団法人 長岡記念財団
長岡ヘルスケアセンター
（長岡病院）

長岡京市友岡4丁目18-1
TEL (075) 951-9201 <http://www.nagaoka.or.jp>



退院に向けてのサポートが大変だと思うのですが。

院長：そうですね。精神科ということでは大変なエネルギーが必要です。しかし患者さんが社会におられる時は、入院中には稀な本当にいい顔をされています。私達はやはり、患者さんのそういう姿を見たいんですね。退院して、笑顔で社会参加をされていく方を増やしていきたい。医師・看護師・精神保健福祉士・作業療法士・薬剤師・栄養士などが細かに関わり、一丸となって社会生活のトレーニングを行います。波のある病気なので、常にフォローアップも心がけています。



最近では地域連携にも力をいれておられるとか。

院長：心の病気は、身体的な疾患にもなりやすいものです。身体的疾患で千春会病院等への受け入れもあり、身体的な治療・検査などを連携していくことで、さらに安心を得ていきたいと思っています。

スタッフの方々の対応がすばらしいのですが。

院長：サービス・接遇マナーには相当に力をいれています。研修などを通じ、理念の「博愛と奉仕の心、和の精神」を基盤に職員が実践してくれています。医者が一番ダメかもしれませんね（笑）。

穏やかな時間が流れる中、ほっとする癒し系の笑顔で語って下さった院長。オフタイムは、DVDで洋画鑑賞を楽しまれるのだとか・・・。

ここに響く介護があります 介護部門からのお知らせ

千春会では、介護の必要な方に適したさまざまな介護サービスを提供しております。お気軽にご相談ください。

ホームヘルプ事業部 フリーダイヤル 0120-21-8599

居宅介護支援事業所	デイケアセンター
居宅介護支援事業所上植野	デイサービスセンター友岡
訪問介護センター開田	デイサービスセンター滝ノ町
訪問介護センター上植野	デイサービスセンター上植野
訪問介護センターみなせ	デイサービスセンター風車
	ショートステイ上植野

ショートステイ上植野

皆さんの毎日の生活習慣を尊重し、食事時間なども体調にあわせ、飲酒なども適切な範囲で提供しております。入浴は、マンツーマンで介助しており、皆さんゆったりした時間を楽しんでおられます。

昼間は看護師が2～3名体制で勤務しており、夜勤では、他ではあまり類を見ない2名当直体制を導入するなど、手厚い介護体制で万全を期しています。



広い居室と明るいデイルームでくつろぐ利用者さん。

自宅のようにくつろげる
旅行みたいに楽しめる

個別ケア計画を立て、利用者さんの気持ちを大切にしています。お一人お一人がご自宅のように滞在していただけるよう、真心込めた対応を心がけています



ふじやま やすひろ
藤山 育広
キャプテン

季節感を盛り込み、1ヶ月に1回のイベントを開催。快適なショートでの生活を送っていただきたいと、スタッフ一同がんばっています。

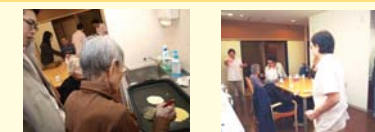


きた まさき
北 昌城
責任者

お楽しみ「おやつ」！この日は、どらやき作りにチャレンジ！（11月13日）

さすがの手さばきで次々と焼いていく利用者さん。「もうちょっと焼き色つけて」「あんまり、あんこは入れん」といってなどリクエストもひっきりなし。みんなで甘いつぶあんを入れれば出来上がり。ゆったりとした時間の中で、楽しくおいしくいただきました。

デイサービスセンター風車



地域体験学習受け入れ

デイケアセンター ★ デイサービスセンター友岡
デイサービスセンター滝ノ町 ★ デイサービスセンター上植野

長岡第三中学校
11月5日（水）～6日（木）

「生きる力」を見つけよう！

千春会の介護施設のうち4カ所で、かわいらしい中学生8名が

「介護施設に行ってみよう」と体験学習をしました。
「亡くなったおじいちゃんがデイサービスを楽しみにしていたので」「お年寄りのことを知りたくて」「ひいおばあちゃんがヘルパーさんにきてもらっているの自分も何かできるのではと思って」など、みなさんしっかりした考えを持って体験に来てくれました。わずか2日間でしたが、千春会での体験でいろいろなことを学んでくれたようです！

今までお年寄りの方と接する機会がなく、知らなかった福祉の事がよくわかりました。「人と関わる」ということを学びました。（妹尾佳奈さん）



初めはすごく緊張しましたが、利用者さんのおみなさんが優しく話してくれたので楽しくなりました。とてもいい体験ができました。（上野佳香さん）



最初は話しかけづらかったけど、勇気を出して話しかけた後は、達成感がありました。いい体験ができました。（石崎裕美さん）



お茶出しするのが大変だったけど、千春会の皆さんは、とても優しく教えてくださったので楽しかったです。（廣田 光さん）



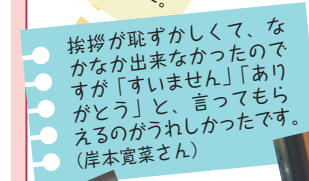
スタッフさんが楽しく接してくれました。風船バレーの上手なおじいさんがいて楽しかったです。（中山 梓さん）



スタッフの方が上手にお話をされたり、スムーズに介助されていたので「すごい」と思いました。戦争体験を聞いて「平和の大切さ」を実感しました。（大谷涼歌さん）



最初は難しいと思っていましたが、お話を聞いて、お孫さんの話などいろいろ聞かせてもらいました。（安田夏子さん）



挨拶が恥ずかしくて、なかなか出来なかったのですが「すいません」「ありがとう」と、言ってもらえるのがうれしかったです。（岸本寛菜さん）